

社会資本総合整備計画 中間評価書（都市再生整備計画 事後評価書）

平成29年3月24日

地区の名称	阿久和・宮沢地区（第2期）都市再生整備計画事業			
交付の期間	平成23年度 ～ 平成27年度（5年間）	交付対象	横浜市	
計画の目標				

阿久和川、和泉川、相沢川周辺の水と緑の環境資源を保全・活用し、これらをネットワーク化することで、誰もが身近に水と緑の環境を親しめる、安らぎのある生活環境を整備・保全する。

計画の成果目標（定量的指標）

- ・相沢川水辺広場等の整備により、水と緑に親しめる環境が創出されたことを、水辺愛護活動に参加する人の数により評価する。（365人/年→365人/年）
- ・相沢川プロムナード等の整備により、歩行者ネットワークの形成が図られていることを歩行者交通量により評価する。（167人/9h→183人/9h）
- ・緑地整備事業により、緑を身近に感じることのできる環境が拡充されたことを、緑の保全・活用に係る活動状況を確認することで評価する。（25人/年→28人/年）

定量的指標の定義及び算定式

定量的指標の現況値及び目標値

① 相沢川の水辺活動に参加する人の数（延べ人数）	当初現況値	中間目標値	最終目標値	備考
	(H21当初)		(H27末)	
	365人/年		365人/年	
② 相沢川沿いの通路を通行する歩行者の数	当初現況値	中間目標値	最終目標値	備考
	(H22当初)		(H27末)	
	167人/9h		183人/9h	
③ 緑の拠点で保全活動を行った人の数（市民団体の構成員数）	当初現況値	中間目標値	最終目標値	備考
	(H22当初)		(27末)	
	25人/年		28人/年	

全体事業費	合計 (A+B+C)	910	A	910	B	-	C	-	効果促進事業費の割合 A(提案分)+C / (A+B+C)	0.0%
-------	------------	-----	---	-----	---	---	---	---	----------------------------------	------

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期

事後評価（中間評価）の実施体制	事後評価（中間評価）の実施時期	事後評価：平成27年度末時点
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者を入れた評価を実施しました。	公表の方法	横浜市ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業 【阿久和・宮沢地区（第2期）都市再生整備計画事業】

A1 基盤事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27		
12-A-2	地域生活 基盤施設	一般	横浜市	直接	横浜市	新橋緑地整備事業	緑地 3.3ha	横浜市						478	
12-A-2	地域生活 基盤施設	一般	横浜市	直接	横浜市	相沢川水辺広場整備事業	広場 1箇所	横浜市						403	
12-A-2	高質空間 形成施設	一般	横浜市	直接	横浜市	相沢川プロムナード整備事業	プロムナード 246m	横浜市						29	
									合計					910	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する  
 交付対象事業の効果の発現状況

- ・相沢川プロムナード等の整備により水と緑に親しめる歩行者ネットワークが図られ、利用者数が増加した。
- ・残された貴重な緑地を指定・取得し、市民の森として整備することにより、まとまりのある森を保全するとともに、市民と協働による生物多様性・安全性に配慮した「森づくり」が可能となった。

II 定量的指標の達成状況	指標①（水辺愛護活動への参加者数） ※延べ人数	最終目標値	365人/年	目標値と実績値に差が出た要因	当該水辺愛護会が平成24年度をもって解散したため最終実績値を評価することができなかった。 なお、新たな水辺愛護会の発足に向けて地元住民と現在調整中である。
		最終実績値	—		
	指標②（プロムナード利用者数）	最終目標値	183人/9h	目標値と実績値に差が出た要因	水と緑に親しめるネットワークが整備されたことにより、生活道路として利便性が向上したほか、健康志向の高まりからウォーキングに利用する市民が増加した。
		最終実績値	279人/9h		
	指標③（緑の保全活動人数） ※市民団体の構成員数	最終目標値	28人/年	目標値と実績値に差が出た要因	多くの地域住民の幅広い活動への参画など、協力を得られたことにより、活動人数が増加した。 なお、活動人数は延べ約400人/年である。
		最終実績値	100人/年		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況  
 （必要に応じて記述）

- ・相沢川水辺広場を大規模災害時における水防活動拠点としての利用を想定している。
- ・相沢川水辺広場を災害時における「いっとき避難場所」として地元自治会で利用してる。
- ・新橋緑地（新橋市民の森）を地域住民が巡回点検や樹林地管理、観察会といった活動に関わることにより、地域に新たなつながりが生まれている。  
 また、相鉄線弥生台駅から近いため多くの市民が憩いの場を求めて訪れている。

3. 学識経験者の意見

本事業の効果は認められる。水辺愛護会・市民団体などの協力を得ながら多くの市民の憩いの場となるような効果的な運営を期待する。

4. 特記事項（今後の方針等）

- ・市民協働を図るために水辺愛護会発足に向けて地元調整を続けていく。
- ・引き続き市民協働による「森づくり」を続けていく。

計画の名称	1 阿久和・宮沢地区（第2期）都市再生整備計画事業	交付対象	横浜市
計画の期間	平成23年度 ～ 平成27年度（5年間）		



■基幹事業 高質空間形成施設  
相沢川プロムナード整備事業

■基幹事業 地域生活基盤施設  
新橋緑地整備事業

■基幹事業 地域生活基盤施設  
相沢川水辺広場整備事業

